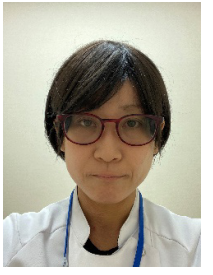
# 北海道マラソン救護班の活動に参加して

済生会小樽病院　齊藤　生夏



今年の北海道マラソンは８月31日に開催され、理学療法士47名が医師・看護師と連携を取りながら救護活動を行いました。

当日、スタート時点では曇りで湿度もあまり高くなく涼しかったのですが、徐々に日差しが出て暑くなり、選手達はコンディションの変化に対応するのが大変だったと思います。例年、関門間際でゴールする選手がよく熱中症になり運ばれてきますが、今年は少し早くから人数が増え始めました。男子テントには一時満員になるほど選手が搬送され、女子テントから人員やベッドを移動し対応していました。私が活動していた女子テントでは、運ばれる人数は少なかったものの、脱水がひどく嘔気などにより経口での水分が摂れず点滴加療が必要となり、回復に時間を要する方が多かったです。理学療法士は主にアイシングで体温を下げたり痙攣に対してストレッチや動作確認をしますが、点滴をする場合は状態が少し改善してから身体サポートを行う必要があったため、バイタルの観察や安楽肢位が取れるよう工夫をしたり、医師・看護師と協力することが特に重要だったと思います。

多くの選手が運ばれてきましたが、無事に大会救護を終えることができました。今大会の経験を糧に、来年以降も選手が安全に競技を行い帰宅できるように体制を万全にしていきたいと思います。